

令和4年度

第1回総合教育会議
会議録

とき 令和5年3月29日

品川区

令和4年度第1回品川区総合教育会議

日時 令和5年3月29日（水） 開会：午後4時30分

場所 品川区役所 本庁舎5階 第五委員会室

| | | |
|-----|----------|--------|
| 出席者 | 区長 | 森澤 恭子 |
| | 教育委員会教育長 | 中島 豊 |
| | 同 職務代理者 | 富尾 則子 |
| | 同 委員 | 海沼 マリ子 |
| | 同 委員 | 塚田 成四郎 |
| | 同 委員 | 吉村 潔 |

| | | |
|-------|---------------|-------|
| 出席理事者 | 総務部長 | 堀越 明 |
| | 総務課長 | 古巻 祐介 |
| | 教育委員会事務局教育次長 | 米田 博 |
| | 同 庶務課長 | 宮尾 裕介 |
| | 同 学校施設担当課長 | 森 雄治 |
| | 同 学務課長 | 勝亦 隆一 |
| | 同 指導課長 | 中谷 愛 |
| | 同 教育総合支援センター長 | 矢部 洋一 |
| | 同 品川図書館長 | 吉田 義信 |

傍聴人数 なし

次第

1. 開 会
2. あいさつ 品川区長、教育長
3. 議 題
 - (1) 報告
品川教育ルネサンスの3つの柱について
 - (2) その他
4. 閉 会

○総務部長

それでは、定刻となりましたので、令和4年度第1回品川区総合教育会議を始めさせていただきます。

本日は、現在のところ傍聴の方はいらっしゃいません。本日の会議におきまして、記録用にカメラ撮影させていただきますので、御了承をよろしく願いたします。

それでは、まず開会にあたりまして、森澤区長より御挨拶をお願いいたします。

○森澤区長

こんにちは。本日は、お忙しいところ、総合教育会議に御参集いただきまして、ありがとうございます。私が区長に就任して初めての総合教育会議となりますので、どうぞよろしく願いたします。

本日の議題は、品川教育ルネサンスの3つの柱についてです。中島教育長の指揮のもと、発展してきた品川区の一貫教育について、改めて振り返るとともに、皆さんの様々な御意見を伺えれば幸いです。

私が掲げている重点施策の1つ、「一人ひとりをささえ、伸ばす子育て・教育で選ばれるしながわ」のさらなる発展に、共に進めてまいればと思っております。学校では、これまでコロナ禍による様々な制限があり、なかなか体験、交流なども難しい状況ではありましたが、4月からは新たなフェーズになります。新年度は、学校給食の無償化、昨日、予算が無事に成立をいたしましたので、4月からしっかりと取り組んでまいります。品川区の子どもたちが一人ひとり充実した学校生活を送れますように、引き続き教育委員会の皆様と連携を深めてまいればと思っておりますので、どうぞよろしく願申し上げます。

○総務部長

ありがとうございました。

次に、教育委員会を代表して、中島教育長から御挨拶をいただきます。よろしく願いたします。

○中島教育長

こんにちは。今日はこういう形で、新しい森澤区長と共に、新しい総合教育会議ができることを大変うれしく思っております。教育委員は1度、お目通しをさせていただいて、御挨拶をさせていただきました。それぞれ、町会長、弁護士、大学教授、そしてドクターと、様々なスペシャリストとしての御専門分野を持ちながら、品川の教育に対して理解と、そして熱い思いを示していただいている方々です。

今日は、テーマとして、教育委員会が現在、学校教育で掲げている3つの教育改革、品川教育ルネサンスの柱を基に協議をさせていただくわけですが、そういった実際に何をやっているかということは資料等にもございますの

で、それを通して、委員の方々がそれぞれ感じていただいていることなどをお伝えいただけると、また区長さんのほうからも、忌憚のない御意見をいただくと大変うれしく思います。

今日はどうぞよろしく願いいたします。

○総務部長

ありがとうございました。それでは、議事に入りたいと思います。

次第の3の議題でございます。品川教育ルネサンスの3つの柱について、お手元に資料をお配りさせていただいております。この資料に沿いまして、指導課長より説明をさせていただきます。

資料は3部構成になっておりますので、各部ごとに説明終了後、皆様の御意見を頂戴したいと思います。

それでは、指導課長からよろしく願いいたします。

○指導課長

では、本日お配りしております「品川区の教育」、こちらに基づいて御説明させていただきます。本区では、次代を担う子どもたちのために、これまで培ってきた教育施策のよさを再構築し、新しい「品川教育」を創生する「品川教育ルネサンス-For The Next Generation-」を掲げ、様々な取組を進めております。

品川教育ルネサンスには3つの柱がございます。まず、「地域とともにある学校づくり」、次に、「3校種体制における学校教育の推進」、「最後に9年間の一貫したカリキュラム」となります。

では、それぞれについて説明してまいります。リーフレットの3ページと4ページをお開きください。まず、「地域とともにある学校づくり」です。本区では、平成28年度から、「品川コミュニティ・スクール」を3年間かけて全校展開してまいりました。平成30年度には、全区立学校を品川コミュニティ・スクールに指定し、保護者、地域住民、学識経験者等が学校運営に積極的に参画することで、学校と地域が一体となって、継続性を保ちながら教育活動の改善や子どもたちの健全育成に取り組んでいます。

品川コミュニティ・スクールの特徴といたしましては、学校運営に参画する「校区教育協働委員会」と、学校支援を行う「学校支援地域本部」の2つの組織を設置いたしまして、この2つの組織や、学校と地域をつなぐ「学校地域コーディネーター」を、全校に会計年度任用職員として配置をしているところで

す。校区教育協働委員会では、教育目標や学校の取組状況、地域の願い、学力調査や各種アンケート調査などについて熟議を行い、学校運営に参画をしております。具体的には、挨拶あふれる学校にするためにはどうしたらよいか、子どもたちが学力や体力を向上させるためにはどのような取組があるかなどがございました。

令和5年度は、「品川コミュニティ・スクールデイ」と称し、この熟議を子どもたち、保護者、地域の方々にも参加していただく機会を設けていきたいと考えています。ほかにも、学校評価や学校支援活動の企画調整などを行いまして、地域とともに義務教育9年間で目指す児童・生徒像を共有し、目標やビジョンに向かって地域と学校が協働した活動を行っております。

学校支援地域本部では、学校支援ボランティアが学校掲示や花壇などの環境整備、地域未来塾などの学校支援を、学校が必要としている支援に応じて活動しております。そして、学校と学習支援ボランティアの連絡調整を行っているのが、学校地域コーディネーターになります。学校地域コーディネーターは、学校の職員室に座席を持っており、日頃から教職員と関わりながら、地域との連携を進めています。

次年度は、学校支援地域本部の充実を図るために、学校支援ボランティア養成講座を実施いたします。また、ボランティアの拡充を図りながら、新たな地域コーディネーターを担う人材を育成してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○総務部長

一つ目の柱、地域とともにある学校づくりについての説明がございました。こちらにつきまして、御意見等をお伺いできればと思います。

○塚田委員

塚田のほうから、コミュニティ・スクールについて。品川コミュニティ・スクールですが、学校地域コーディネーターが職員室にいて、教職員の皆さんが相談しやすい体制であると思います。本の読み聞かせや、朝の挨拶運動など、様々な活動を地域の方々の協力を得ながら進めていると聞いております。今後もこうした取組が継続していけるよう、引き続き体制整備を図っていただきたいと思います。

○吉村委員

この3ページの、品川コミュニティ・スクールの校区教育協働委員会、それから学校支援地域本部、この2つの柱で地域とともにある学校づくりを進めていくということなんですけど、この校区教育協働委員会というのは、そもそもは今から20年ぐらい前に、品川区が全国に先駆けて学校評価ということについて研究をして、その頃までは、学校を評価するというようなことはあまりなかったんですけども、学校を評価するという点において、保護者や地域住民の方がそこに入って行く。

そのことによって、その経営参画という意味で、今まで、それまでは学校は学校だけで完結していたのを、保護者や地域の方も含めて学校運営を考えている、そういう中で発展してきたのがこの校区教育協働委員会なんです。ですから、この中の機能には、学校評価という機能も当然残っているというか、結

構大きいです。

そこでは、今まで学校が、本当は学校というのは困っていることとか、何か地域の方に手伝ってほしいこととか、あるわけですけど、なかなかそういうことを言わなかったし、言えなかった。そうじゃなくて、学校はいいことばかりを言うんじゃないかって、学校は今こんなことで困っているんですよといったときに、地域の方や保護者の方が一緒に考えてくれる、そういう学校を目指して、この校区教育協働委員会もあったと思うんです。

ですから、ここで大事なのは、特定の教職員だけじゃなくて、教職員全体、あるいは保護者、地域にどれだけここで話し合われていることが発信されているかということが、非常に重要なんじゃないかなというふうに、私はこの仕組み、体制については思っております。今、現状、恐らくそういうことに各学校、努力していると思うんですけど、そんなことがこれからも、各学校は重要なポイントとして考えて、この制度をつないでいってほしいなというふうに、私は思っております。

以上です。

○中島教育長

何か順番で発言しているみたいで申し訳ないんですけども、今、吉村委員が言われたのは、やはり品川区のプラン2 1から続く1つの教育の流れの中で、ただ、途中では、やはり評価はするけど、言いつ放しというようなところもありましたものですから、じゃあ、一緒に解決策も考えていこうよということで、コミュニティ・スクールとしてのこの委員会として、機能し始めてきたところかなというふうに思います。

ホームページにその内容を上げている学校もあれば、毎月学校だよりも挟んでたよりもを出しているという広報の仕方をしているところもあるんですけども、今お話があったように、よりその地域の中の子どもをどう育てるかという話ですので、情報共有するための手段というのは、今後考えていかななくてはならないところかなと。

今年、コミュニティ・スクールデイでしたっけ、各学校がどこかで1回、従来の委員さんだけでなく、もっとそれを拡大して、PTAの役員さんですとか、地域の町会の方ですとか、それから、児童会、生徒会の子どもたち、一緒になってテーマを持って協議するような場面をつくっていこうというような取組を進めようとしているところでもあります。

○森澤区長

ありがとうございます。仕組みとして、やはり、学校地域コーディネーター中心にこの校区教育協働委員会、学校支援地域本部、しっかりとした仕組みがあって、やはり、これだけ本当に社会変化が速いしですし、将来を生きる子どもたちが向かっていく社会というのは、また私たちが想像できないものになっている中で、やはり学校だけでなく、地域にも、本当、様々子どもたちに対

してこういうことをしたいとか、こういうことを教えてあげたいとか、こういうことをしてあげたいというような思いを持っている人がたくさんいて、そういう人たちを学校地域コーディネーターがしっかりとつないで、地域全体で学校運営をしていくという視点が、ますますこれから重要になってくるのかなというふうに思っております。

先ほど塚田委員からありました、引き続き体制整備を図っていただきたいというお話、そして、校区教育協働委員会、せっかくこういった仕組みをつくっているわけですから、今、教育長からもありました情報手段を考えていきたいということでしたが、やはりしっかり発信をして、また、循環していくような、せっかくここで話し合われたことが、また改善されたり、何か新しい取組につながったりで、よりよくしていくという、そういう好循環をつくっていくことが重要なのかなというふうに、今聞いていて思いました。ありがとうございます。

○中島教育長

このCS（コミュニティ・スクール）の特に校区教育協働委員会の委員さんたちは、今謝礼という形でやっているんですけども、やはり協議する時間が限られてしまうので、今後、会計年度任用職員にまた見直していくですとか、より密に協議ができるような体制ができるといいなど、教育委員会でも思っております。

○総務部長

ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、二つ目の柱について、指導課長より説明をお願いいたします。

○指導課長

それでは、リーフレットの5ページを御覧いただければと存じます。続きまして、「3校種体制における学校教育の推進」についてです。現在、区内では小学校、中学校及び義務教育学校を設置しております。3校種体制における学校教育を推進しております。小学校は1年生から6年生が在籍し、現在31校、中学校は7年生から9年生が在籍し、現在9校、そして義務教育学校は1年生から9年生が在籍し、現在6校ございます。

義務教育学校とは、学校教育法第1条で定められている学校種の1つでありまして、品川区では、施設一体型小中一貫校として設置していた6校を、平成28年度より義務教育学校として位置づけております。現在、区内のどこに住んでいても、単体の小学校・中学校、または義務教育学校を選択することができる状況となっております。

また、義務教育9年間の一貫教育における連携グループを、中学校及び義務教育学校の後期課程ごとに設定しております。連携グループは、1つの中学

校や義務教育学校後期課程と、1校から3校の小学校、義務教育学校前期課程とで構成をしております。各連携グループでは、お互いの学校を参観し合い、授業の様子を見合うなどしながら、連携を深めているところでございます。

以上でございます。

○総務部長

ありがとうございました。二つ目の柱、「3校種体制における学校教育の推進」について説明がありました。こちらにつきましても、御意見をいただければと思います。お願いいたします。

○富尾委員

それでは、富尾のほうから意見を言わせていただきたいと思います。品川区では、小学校・中学校・義務教育学校の3校種体制で学校教育を推進していますが、それぞれの特徴や地域性を生かしながら、各学校の特色ある教育活動が展開されていると思います。

また、区立公教育要領という共通の指針がありますので、どの学校においても、区の一貫教育を推進することができる体制がとられていることも大変よいことだと思います。今後も、区の一貫教育が充実、発展していくことを期待しています。

○海沼委員

校種を選択できる体制は、品川区ならではの取組であると思います。区では近年、子どもが増えてきていると伺っています。結構マンションがたくさんできるなど、品川区は住みやすいまちということで、他区からも結構入ってきていると思いますので、そういう面で、大分増えているのかなと思っております。3校種体制を含めまして、円滑な教育活動を推進できるように、今後も体制、設備を整えていただくよう図っていただければと思います。

本当に人数が増えて大変だと思えますけれども、各校でも、今、満杯のところもありますよね。ですから、ちょっと大変かなと思って、これ以上、校舎を広くできないという場所もあるでしょうけれども、やはり子どもたちのために何とかいい方法があればなと思えますので、これからもよろしく願います。

○中島教育長

今、人口増の話が出ましたが、来年度、学事制度審議会を開かせていただいて、そのことも検討する予定なんですけれども、6年前にこの学事制度審議会を開いたときには、今後、児童数が減少してきた場合にどのようなことをすればいいかということで、また学事制度審議会を開催することもあるでしょうというような終わり方をしたんですが、まさか子どもたちが増えて、それで、その対応について考えていくために、再度開催する状況になるとは、想定外の部

分でありました。

一時期、品川の学校の選択は学校間の格差をつけるですとか、競争させるですとか、そういうことを言われたことがあるんですけども、この学校選択によって、まずは教員の意識を変えていこうという部分が、その当時は確かにあったことは間違いありません。

今は、平成28年度に学校教育法が改正されて、6年、3年という分離型の義務教育に行くのか、9年間で行くのかという、日本の新しい義務教育の制度を、それを選択することができる。そういう自治体は、こういう形で地域に根差した形で選択できるのは品川だけだと思っております。都内では、あと八王子と、江東区に義務教育学校があるんですが、これは市内、区内全体から選ぶことはできるんですが、エリアにある学校ではないので、こういうふうにエリアで選べるという品川の強み、これを子どもたちの学びにつなげていけるということで、3校種体制の学校選択がある学校教育というのは、特筆すべき部分ではないかなというふうに考えているところでございます。

○森澤区長

ありがとうございます。今、子どもが増えているという話で、ありがたいことですけども、学事制度審議会を開催して、しっかり対応していくということが、また、まず1つ必要だと思えます。そして、先日、私、卒業式で日野学園に伺ったときに、大分コロナが明けて、視察が増えているというようなお話がありました。それだけ、品川区の小中一貫というのは注目され、そして、その他の自治体でも、そういった先進的な事例として捉えられているということに改めて認識した次第です。

それぞれの体制で、しっかりと特色を持ちながら、また競争を促してしまうのではないかなみたいなお話が今ありましたけれども、その特色、先生たちがそれぞれの地域に合わせて、また子どもたちの様子に合わせて、しっかりと見ながら特色を出していく、特徴を出していくということが大事なのかなというふうに思っております。ありがとうございます。

○総務部長

その他、いかがでしょうか。よろしければ、それでは、三つ目の柱について、指導課長から説明をお願いいたします。

○指導課長

それでは、リーフレットの6ページを御覧いただければと存じます。最後に、「9年間の一貫したカリキュラムについて」お話をさせていただきます。本区では、義務教育9年間を通しまして、より充実した学びを得られるよう、各教科の系統性を明確にした「品川区立学校教育要領」を策定しております。こちらは、学習指導要領をベースとしながらも、品川独自の取組を組み込んだものになります。

総則には、「『知・徳・体』をバランスよく兼ね備えること」、「困難に負けず生き抜く力を持つこと」、「地域に愛着を持ち、地域の一員として社会に貢献すること」、「伝統と文化を尊重する国際的な視野を持つこと」の4つの重点を挙げております。この教育要領を通しまして、次代を力強く生きる児童・生徒の育成を目指しております。こちらの品川区立学校教育要領については、全教員に配布をしております。

品川独自のカリキュラムといたしまして、1年生からの英語科、特別の教科、道徳や総合的な学習の時間、特別活動を統合した市民科があります。ほかにも、品川教育の実践として、これまでオリンピック・パラリンピック教育のレガシーとして実施をしております「しながわ学校2020レガシー」、体力向上をねらいとした「SHINAGAWAアクティブライフプロジェクト」、ICTの活用などの取組を行っております。また、特別支援教育やいじめ防止対策、不登校対策など、子どもたち一人ひとりに応じた教育の充実にも努めております。

以上でございます。

○総務部長

ありがとうございました。三つ目の柱、「9年間の一貫したカリキュラム」について説明がありました。こちらにつきまして、御意見等お伺いできればと思います。お願いをいたします。

○海沼委員

英語教育についてですけれども、小学校の子どもたちが担任や講師の先生方と楽しそうに活動している様子を拝見したことがあります。また、7年生以降の英会話体験が充実されていることは、子どもたちにとってとてもよい機会であると思います。また、コロナ禍の影響で実施していなかったイングリッシュキャンプも、今年度は実施できたと伺っております。徐々にコロナも緩和されていく様子なので、次年度も様々な活動が予定どおり実施できることがよいことだと思っております。

イングリッシュキャンプも、前に一度見学に行かせていただいたんですけど、とても伸び伸びとしていいなと思っていました。なかなか我々、英語を話す機会ってないじゃないですか。あそこはよかったですね、子どもたちがすごく伸び伸びとしていて。

○中島教育長

福島県のブリティッシュヒルズでやっている2泊3日のイングリッシュキャンプですね。中学生40人ぐらいを連れて行って、実施をしているので。中学生になりますと、大体英語でも、やりたいという思いを持っている子たちと、うーんという思い、いろいろありますので、各学校で、毎日放課後に少人数のカンパセーションはやっているんですけれども、もっと伸びたいという子たちから選びまして、連れて行って。

最後には、もっと伸びたいという子が29日間のオークランドの語学派遣に行くというシステム。

○海沼委員

ここは、すごいですよ。

○中島教育長

重層的にやっているところです。

○塚田委員

それでは、塚田からちょっと御意見を申し上げます。9年間の一貫したカリキュラムとしては、英語のほかに、品川区では市民科というのを設けております。市民科では、品川学園で実施していた体験型経済学習施設「スチューデント・シティ」や「ファイナンス・パーク」が開始当時、とても注目されていました。現在は、ファイナンス・パークについて、1人1台端末を活用して実施しているということですので、こちらも様子を見てみたいというふうに思っております。

以上でございます。

○中島教育長

区長さんにも、ぜひ機会があれば、「スチューデント・シティ」でも、「ファイナンス・パーク」でも、御覧いただければと。

○森澤区長

私は伺いました、品川学園。すごい、素晴らしいなど。

○中島教育長

「スチューデント・シティ」ですかね、まちみたいなところ。

○森澤区長

そうです。

○中島教育長

今、コロナ禍の中で、あそこを今度また拡大しまして、密を避けるようにして。

○森澤区長

そうなんですか。

○中島教育長

「ニュースチューデント・シティ」。また、新たな形で、密を避けながら小学生が学べるようにバージョンアップしておりますので。

○森澤区長

ああ、そうなんですか。スペースはあったんですか。

○中島教育長

元のファイナンス・パークのスペースを丸ごと使いまして。今、ファイナンスは、各学校でタブレットを使った学びに全部切り替わっておりますので。

○森澤区長

ああ、なるほど、そういうことですか、そこでやらないでということですね。一般の企業さんに協力していただいて、キッズニアみたいなのを、本当にそれが品川区にあって、すごいなど。

○中島教育長

ぜひニュースチューデント・シティを御覧いただければと思います。

○富尾委員

私の方から。品川教育の実践にあります、ICTの活用ですけれども、今年度11月に行われました、品川ICTシンポジウムの様子を拝見しました。子どもたちが自然にタブレットを活用して授業に取り組んでいる様子を見て、大変驚きました。ICTといいますと、私、オンライン授業なのかなというふうに最初思っていたので、そうではなく、道具としてタブレットを活用している子どもたちの様子を見て、びっくりしたんですけれども。

とはいえ、そういった教育が今までなかったものですから、やはり導入の当時、学校の先生方も大変戸惑ったのではないかというふうに推察しますけれども、大変な努力をされて、ここまで来ているのだというふうに感じました。今後も、教員一人ひとりの活用推進を図っていただくことを期待しておりますし、ICT支援員などの専門的な支援や技術的サポートなど、教員の不安感や負担軽減ということにもつながるようにしていただければというふうに思います。

○中島教育長

ICTは、教育内容というよりは、内容の部分も若干あるんですけど、方法的な部分なので、どうやるかというのは、各自治体によっても状況が大分違うんじゃないかなと。品川はとにかく、いつでも、どこでも、それが使えるようにということで、現在、Wi-Fiも使える、LTEも使えるという体制をつくっていただいていることが、非常に教育効果を高めていると思います。区内で、子どもたち全員分と教員とか、教育委員会も全部含めて持っています。マイスクールでも持っていますので、2万5,000台分ぐらい動いているのかし

ら。

物すごいランニングコストが毎年かかっておりまして、身が縮む思いなんですけれども、結果的に子どもたちのいい学びにつながっていているのかなと。今年度拡大していただいたこの支援員の学校への配置回数なども、すごく学校では感謝の声が届いておりますので、これ以上は多分、発展はなかなか難しいかなと思うんですが、今の状況を使いながら、教育内容をより高めていけるといいなあと思っています。

○吉村委員

私のほうからも。やっぱり義務教育9年間を一貫するという、今でこそ結構全国で、こういう小中一貫教とかってやっているとと思うんですけど、意外に教育論というか、教育をどうしたいかということで、小学校・中学校をつないでいこうという発想をしている自治体というのはあまりなくて、品川区は最初から、9年間を通して子どもたちをこんなふうに育てていきたいという、そこがあったと思うんです。

例えば、他地域、他の都道府県なんかでは、子どもの数が少なくなったから、学校を1つにしてとか、そういう行政的な理由からというのが結構あるんですけど、品川の場合は、学校を統廃合するとかということよりも、教育的な見地から9年間をつないでいこうと。その一番の大本になったのが、今もあります小中教育要領。品川区として、教育をどう考えていくかということをつくって、これも何回か改定して、今に至っていると思うんです。

その中で、1年生から英語をやっていきましょうとか、先ほども出た市民科であるとか、そういうことが出てきているんです。ただ、これも、今どんどん世の中が変わっていくのが早いので、1回つくった教育要領がそのままずっとというわけにいかないと思うので、その辺りは、大事なことは残しつつ、新しいこともやっぱり敏感に取り入れて、教育要領の中に入れ込んでいって、教育論からつくっている品川の小中一貫教育というのをさらに充実させていくことが大事なのかなというふうに思っております。

○中島教育長

まさに吉村委員は、小中一貫教育担当課長という、品川での立場を経験されているので、その時代につくってきた部分ですから、私がコメントを挟むことはないんですけども。この一貫教育要領が、やはり品川の一貫教育の支えになっているということは、もう間違いないと思います。特に市民科につきましては、既にデジタル教科書に全部、今年の2学期から切り替えてありますので、その中でQRコードを使った新しい情報ですとか、そういったものにも対応していける。市民科は進化する教科であって、実学として子どもたちが実際に学んでいける、品川のこれからの時代を生き抜く力を持った子どもたちをつくる根幹ではないかなと思っていますので、ちょっと経費もかかりますが、温かく見守っていただければうれしく思います。

○森澤区長

ありがとうございます。本当に市民科、そして英語も、私も入学式に参加したとき、初めて小学校の行事に参加したときに、子どもが英語の歌ですらすらと披露していて、全くよどみがなく、みんな一斉に「桃太郎」を歌ったと思うんですけど、本当にそれに感動しました。この品川区の英語教育というののすばらしさと、また、先生たちも日本人の先生と外国籍の先生、ネイティブの先生とということで、すごく充実しているかなと思いますので、この辺はさらに伸ばしていく、充実させていくことが必要なかなと思っています。

また、その市民科、おっしゃっていただいたように、実学としてこの社会を生き抜いていくために、前、吉村先生がおっしゃっていただいたように、やっぱりアップデートしていくようなところも、一方で必要だとは思いうんですけども、そういったところを充実させていくことは、やっぱり品川区の特色を出していくという意味で、非常に重要なかなというふうに思います。

また、デジタル、ICT支援、本当に子どもたちはデジタルネイティブで、大人よりも、ささっと端末を使いこなしているなという感じがしておりますけれども。先生たちの負担というのは軽減しなくてはいけないですし、子どもたちがどんどん先に進んでいったり、学校の中でも、教育の授業の中でさらに活用できるように、こういったICT支援員さんの力を借りながら、内容を充実させていくということを進めていければいいのかなと思います。

○総務部長

ほかにはいかがでしょうか。

○中島教育長

ちょっと一言付け加えさせてください。実は、平成28年度にこの総合教育会議がスタートした頃、当時は品川区の教育大綱という、これは長期基本計画に基づいた形で、品川の学校教育に限らず、教育に関わる全ての要素を6つのジャンルに分けて、こういう形で子どもたちを育てていきたいというものを作成しております。ちょっといろんなところで忘れられた存在になっているのかなというところが不安なんですけれども。

その中の1つに、今日のテーマ、学校教育の充実がございます。あとは、就学前教育の充実ですとか、青少年教育の充実ですとか、今、部活の地域移行が話題になっておりますけれども、生涯学習スポーツの充実ですとか、文化財とか、教育に関わる多面的な部分がありますので、またこういう機会がございましたら、もちろん学校教育もそうなんですけど、そういった様々な育成のテーマで、区長ともお話ができるといいかなというふうに思っております。

○総務部長

ありがとうございます。今、お話しいただきました、次第を御覧いただい

て、議題の品川教育ルネサンスの3つの柱についての御報告と御意見、意見交換についてしていただきました。

こちらも含めて全体と、それから、次第の(2)のその他もございますので、何か関連するものがあれば、御意見を頂戴できればと思います。

よろしいでしょうか。そうしましたら、閉会となりますので、最後に森澤区長から御発言、お願いいたします。

○森澤区長

本日はありがとうございます。品川区では、次世代を担う子どもたちのために、これまでも様々な教育施策を推進しております。1つ御紹介したいのが、リーフレットの11ページにある「しながわ学校2020レガシー」では、オリンピック・パラリンピック教育の中での特色ある教育活動が評価されて、先日、スポーツ庁から優秀賞をいただいております。今、区長応接室に飾っております。皆さんの、来訪者の方々の目に止まるようにということで飾っております。これは本当に素晴らしいことです。

残念ながら、無観客になってしまった東京2020大会ではありますが、品川区には大井ホッケー場があります。また、ブラインドサッカーなど、ホッケー、ビーチバレーなど、応援競技として取り組んできたところもありますし、やはりスポーツということだけではなくて、やっぱりパラリンピック、心のバリアフリー、そういったことも含めてレガシーとして引き続き取り組んでいく必要があるのかなというふうに思っております。

また、ちょっと今回の内容とは若干違いますけれども、やはり子どもたちを取り巻く環境というのが、本当に複雑化、多様化しています。そういった中では、今日ありました地域の皆さんと一緒に様々な課題に取り組んでいくこと、あるいは福祉の分野とも協働していくこと、そういったことも今後、さらに必要になってくるのではないかと思います。

目的としては、やはり子どもたち一人ひとりがしっかりと、伸び伸びと成長ができる、そして子どもたち、特性や、あるいは個性、能力がしっかりと伸ばされていく、そういった品川区の教育にしていきたいというふうに思っておりますので、引き続き皆様とぜひ様々な意見交換をしながら、品川区の教育を進展、発展をさせていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○総務部長

それでは、以上をもちまして、第1回総合教育会議を終了いたします。

どうもありがとうございました。

— 了 —